

「 危険を減らし 多くの命を 」

茨城県 つくばみらい市立陽光台小学校 5年 ^{いのうえ}井上 ^{みち}倫

土砂災害とは、自然災害などの発生により流れ出した土砂により、人の命や生活に被害が及び災害のことです。例えば、人が土砂に流されて亡くなってしまうたり、家が土砂に押しつぶされて住めなくなってしまうりする被害が出ます。このような土砂災害が、日本では、多く発生しています。その中でも、土砂災害発生件数の上位5つの県は、広島県、神奈川県、鹿児島県、長野県、鳥取県です。国土交通省によると最も多い広島県は、2021年に129件もの土砂災害が発生しています。最近では、2021年に、長野県長野市篠ノ井で土砂災害が起き住宅が被害にあいました。自然豊かな日本の各地には、土砂災害という危険が潜んでいます。だからこそ、土砂災害から身を守るために、土砂災害の原因についてまとめることにしました。

土砂災害が発生する原因は無数にありますが、大きく4つに分けて説明することができると思います。1つ目の原因は、地形です。山や谷が入り組んでいて、高低差があると土砂が流れやすくなります。例えば、先ほどあげた長野県の篠ノ井の周辺は盆地になっており、土砂災害が起きやすい地形と言えます。2つ目は、土の種類です。土が多く水を含んでいると斜面が崩れやすくなり、土砂災害が発生しやすくなります。例えば、土砂災害の被害が日本で一番多い広島県の土は、花こう岩でできたまさ土という種類の土で、雨が降ると多く水を含んでしまいます。3つ目の原因は、開発です。入り組んだ山にマンションなどの建物を開発すると、山が不安定になり土砂が流れ落ちる危険があります。山に近い住宅は、流れた土砂に巻き込まれやすくなってしまいます。4つ目の原因は、気候を含む自然現象です。長く雨が降ったりすると、土砂災害が発生しやすくなります。特に最近では、線状降水帯という、雨雲が線のようにくっついて、長く雨を降らせる自然現象が、土砂災害を発生しやすくしています。他にも地震や火山の噴火などで、土砂が流されていくこともあります。

土砂災害の発生件数が最も多い広島県へ行き、2021年に土石流が発生して、多くの被害がでた広島市西区田方に立ち寄りしました。山が住宅街に囲まれていて、マンションの近くには、木がおいしげる急な斜面の山がありました。土砂災害の原因となる地形に人が生活していました。去年に土砂災害が発生した所は、土袋で支えられていて、まだ工事をしていました。山の上の方にも建物があり、なぜ今にも土砂災害がおきそうな場所に建物を建てるのかが疑問でしたが、広島県は人口に対して平地が少ないため山を切り開いて街や住宅地を開発しているそうです。そのため、広島県は土砂災害の対策を進歩させています。広島県安佐南区では砂防堰堤が土石流を捕捉しました。砂防堰堤とは、土石流などを止める役割があります。この砂防堰堤は、国土交通省や自治体が土砂災害の多い所に作っています。さらに、人々の協力も土砂災害の対策として役立っています。土砂災害が起こると自衛隊や病院、水道、ガス会社などが協力して動きます。今後は、他にどのような対策をしているのかを調べて、まとめてみたいです。

最後に、身近な所の土砂災害の発生について考えてみました。茨城県つくばみらい市はあまり土地の高低差がありません。広島県と比べて、土砂災害の発生件数はとても少ないです。しかし、土砂災害の原因や対策を考えると、他の自然災害にも応用できると思います。土砂災害について、学んで気が付いたことは、土砂災害は危険だけれど、原因や対策を知り、自分に今、できることを実行することで、身近で発生しても、危険を減らし、自分の身や、多くの命を守ることができるということです。